

1. 日 時：平成 24 年 3 月 5 日(月) 午後1時半～3時
2. 場 所：大阪市立中央図書館 5 階中会議室
3. 出席者：別紙のとおり
4. 会議内容

〔議事〕

(1) 「大阪市 One Book One OSAKA 事業」について (事務局より報告)

これまでの経過について

子ども運営委員会・子ども運営委員夏休み図書館体験・絵本展、企画 PR 部会

(One Book One OSAKA NEWS 14 号～17 号 参照)

絵本講座・世代間交流事業等関連イベント

(2) 「One Book-大阪市の 1 冊の絵本-」の候補について

■ 最終得票状況報告(事務局より)

[第 3 回 One Book One OSAKA 開票結果資料参照](#)

- ・ **第 3 回の総投票数：14,194 票** (第 1 回：8,466 票、第 2 回：13,012 票)
- ・ 『はらぺこあおむし』は殿堂入りし、新たに『100 かいたでのいえ』『へんしんトンネル』がシリーズトップテン入り。
- ・ シリーズでは、1 位『ぐりとぐら』、2 位『おまえうまそうだな』
- ・ 単独絵本では、1 位『ぐりとぐら』、2 位『100 万回生きたねこ』、3 位、『おまえうまそうだな』、4 位『ふしぎなキャンデーやさん』が入る。
- ・ 『ぐりとぐら』は毎年得票数が上がっている。大阪市内各区で第 2 回 OneBook の『ぐりとぐら』を題材にしたイベントを開催したことが影響したのではないだろうか。

■ 3 月 3 日開催の「子ども運営委員会」での意見報告(運営委員長、副運営委員長より……)

- ・ 「正・副子ども運営委員長」にも積極的に立候補してくれたり、3 年連続で運営委員を引き受けてくれる子どもたちもいた。10 人の子どもたちがしっかり意見・感想を言ってくれていた。
- ・ 子ども運営委員会の意見としては……
「第 3 回 One Book には、『おまえうまそうだな』(宮西達也作/絵 ポプラ社)を推薦したい。『100 万回生きたねこ』など上位ランキングに入った絵本は、いろんなイベントの際に紹介して欲しい。」
- ・ 『100 万回生きたねこ』を理解するのは、小さい子どもにはむずかしいかもしれないが、絵本を知るきっかけになる。

- ・ 『おまえうまそうだな』は、恐竜の絵本で、女の子にはなじみにくいかもしれないが、ティラノサウルスの優しさが伝わってくるし、関連イベントもいろいろと出来ると思う。
- ・ 子ども読書の日の行事に子ども運営委員も参加したいので、土日に実施して欲しい。

■ 第3回「One Book」の決定について

〈運営委員の意見〉

〈まとめ〉

- ・ **第3回 One Book は、『おまえうまそうだな』に決定。**
- ・ トップランキングの絵本リストの広報に力を入れる
- ・ 『ぐりとぐら』、『100万回生きたねこ』は別途、何か賞を与えるのも一考か？



■ 『おまえうまそうだな』

- ・ 子ども運営委員会の意見を尊重して、第3回の「One Book」は、『おまえうまそうだな』が良いと思う。
- ・ 『100万回生きたねこ』は、小学生高学年以上向きか。幼児からを対象にするなら『おまえうまそうだな』がよいだろう。
- ・ 『おまえうまそうだな』はシリーズになっていて小学校で読み聞かせすると、先生も感動される。パペットも出ている。幼稚園や保育所でも人気がある。
- ・ 『ぐりとぐら』はイベントなどやり尽くした感があるので、第3回 One Book には『おまえうまそうだな』が良いと思う。
- ・ つどいの広場のイベントにランキング上位絵本などを展示して、人が集まった。各区で図書館を中心に関連イベントを大々的に行うことで、より広がりを感じられ、絵本が身近なものになった気がする。子ども運営委員会の報告より、子ども運営委員たちの『おまえうまそうだな』で何かをしたい、という気持ちが伝わってくるので、尊重したい。

- ・ 『おまえうまそうだな』『100万回生きたねこ』『ぐりとぐら』の3冊とも小学校児童には人気がある。イベントだけでなく、ボランティアの地道な読み聞かせ活動が効果的で、読書好きの子どもが増えた。『おまえうまそうだな』は子どもたちの間で流行っている。
- ・ 子ども運営委員たちの自主性を大事にして、『おまえうまそうだな』がよいと思う。
- ・ 個人的には『100万回生きたねこ』が大好きだが、イベントは幼児や低学年向きが多いので、One Book には、『おまえうまそうだな』が良いと思う。
- ・ 昨年、子どもゆめ基金の助成を受け開催した「おはなしたのしいでえ！」の講演会で、『おまえうまそうだな』の作者宮西達也氏が図書館でお話されたが、平日だったので満員にならず残念だった。お話もおもしろく、第3回 One Book が『おまえうまそうだな』に決まれば、イベントに是非呼び出して多くの人に参加してもらいたい。
- ・ 関連イベントの開催等、本事業の効果で児童書の貸出が増えるのはうれしい。『おまえうまそうだな』で今までと違って大きい子どもたちを対象にイベントが盛り上がりよくなると思う。
- ・ 大阪は食い倒れの街、食べ物がテーマではなくタイトルの語感だけではあるが、『おまえうまそうだな』は One Book One OSAKA の「大阪」に合っているかも。
- ・ One Book の投票をこれまで3回実施したという意味について考えたい。第1回 One Book『はらぺこあおむし』は世界的ベストセラー、第2回 One Book『ぐりとぐら』は知らない子がいないのではないかというくらいの定番絵本。今回候補に挙がっている『おまえうまそうだな』は今までと違った傾向の新しい絵本。この事業を続けていけばもっと違う絵本が出てくるかも。継続を期待したい。
- ・ 『ぐりとぐら』『はらぺこあおむし』以外にいろんな絵本を知ってもらえるほうがよいので、第3回 One Book には、『おまえうまそうだな』を推したい。
- ・ 『100万回生きたねこ』は「死」を取り扱っているため、学校等で読み聞かせする時には、時期を考える必要がある。その点、『おまえうまそうだな』は、いつ、どこで読み聞かせても間違いなく、楽しんでもらえる作品である。



■ 『100万回生きたねこ』

- ・ 開票結果を見て、『100万回生きたねこ』が小学生でもたくさん票を得ているのに驚いた。『ぐりとぐら』が今年度の各区で開催した関連イベントによりこれだけ多くの投票数を得たのだから、これを機会になかなか手に取りにくい絵本を関連イベント等で紹介できるのもよい。
- ・ 『100万回生きたねこ』は乳幼児には難しすぎる。作者が2010年に亡くなったのでその影響を受けて票が入ったのでは？
- ・ 『100万回生きたねこ』は「死」を扱っているので、読む時期を選ぶ。イベント企画もむずかしい。
- ・ 『100万回生きたねこ』は「死」を扱っているが、こういう機会に経験として読み聞かせをするのも意義があると思う。
- ・ 単独本では、『100万回生きたねこ』のほうが、『おまえうまそうだな』より得票数を稼いでいる。
- ・ One Book には、毎回違う絵本を選んだほうがよい。『おまえうまそうだな』でよいと思うが、『100万回生きたねこ』も捨てがたく、「館長特別賞」など別の賞をあげてはどうか？



■ 『ぐりとぐら』

- ・ 『ぐりとぐら』が今回も得票数ではダントツ1位なので、それを重視すべきでは？
- ・ 『おまえうまそうだな』は、去年映画化されたから得票数が多かったのではないか。『ぐりとぐら』のほうがよい。
- ・ 『ぐりとぐら』の絵本に、これだけ投票が集まったということを大切にしたい。
- ・ 『ぐりとぐら』は関連イベントの影響もあって得票数が多かったのでは？

(3) 今後の事業予定について

- ・ 第3回「One Book」の教育長への報告は、4月初旬で日程調整中。
- ・ 「第3回 One Book One OSAKA 発表会」は、子ども読書の日である4/23(月)に開催予定だが、今年は平日にあたるため、別途子ども運営委員と調整し土日にイベントを開催することも検討。
- ・ 平成24年度についても、One Book One OSAKA 事業運営委員会は継続開催する。絵本講座、世代間交流事業についても24区で各3回程度開催予定。
- ・ 平成24年度は投票はないとのことだが、25年度以降はどうなるのか？
→ 財源がないので、投票用紙に広告を載せるなど、いろいろ案を出してもらって、平成24年度中に決めたい。

(4) その他

- ・ インターネットの2ちゃんねるで、「大阪市の1冊の絵本 One Book」のことが話題になっていた。各自読んだ絵本を話題にしており、自分たちの One Book を決めたりしていた。その絵本のタイトルより、20-30代が主な発言者ではないかと推測される。インターネットで他者とつながる世界(拡張現実)についても、私たち読書推進に関わる図書館側も否定的にとらえず、一緒に楽しんでもみるのもよいかも。(事務局)
- ・ 本事業の今後を検討するにあたって、これまでの効果検証を事務局で行った。
(近畿公共図書館研究集会事例発表での本事業の自己評価 参照)